

第 38 回日本呼吸療法医学会 第 3 回理事会議事録 (2015 年度第 3 回理事会)

日 時：2016 年 5 月 11 日（水）13：00～16：30

場 所：東京八重洲ホール 9 階 902 会議室

出席者：川前金幸（理事長）、竹田晋浩（副理事長）、大塚将秀、尾崎孝平、落合亮一、
小谷 透、藤野裕士、西田 修、布宮 伸、橋本 悟（各理事）、
氏家良人、妙中信之（監事） [敬称略]

陪 席：山崎由華、小笠原聡（事務局）

【開 会】（川前理事長）

【報告事項】

1. 前回理事会議事録（案）の確認・承認（川前理事長）
 - ・前回議事録案が承認された。
2. 事務局からの報告（大塚理事）
 - ・2016 年 5 月 1 日現在の会員総数は 1986 人
 - ・2015 年 4 月 1 日は 2112 人、同 10 月 1 日は 2166 人、2016 年 4 月 1 日は 2190 人
 - ・学術集会後に増加、年度末に減少（自然退会および自主退会）を繰り返している
 - ・4 月から 5 月の会員減少は、新年度会費請求を契機に自主退会を申し出るため
 - ・今後は、学術集会後の 10 月と新年度の 5 月に会員動向を集計する予定
 - ・この 3 年間の会員数は、ほぼ横ばい
 - ・賛助会員は 12 社
 - ・会費納入率は、2013、2014、2015 年度でそれぞれ 89.8、77.8、97.6%
 - ・2015 年度の会費納入率増加は、例年よりも督促を増加させたことによる
 - ・代議員の所属変更
 - 池崎弘之先生（かわぐち心臓呼吸器病院）
 - 石原英樹先生（八尾徳洲会総合病院呼吸器内科）
 - 今中秀光先生（宝塚市立病院集中治療部）
 - 公文啓二先生（医療法人沖縄徳洲会吹田徳洲会病院）
 - 小谷 透先生（昭和大学麻酔科学講座）
 - 中沢弘一先生（宇都宮記念病院麻酔科）
 - 野口裕幸先生（北里大学保健衛生専門学院臨床工学専攻科、CE 野口企画）
 - 星 邦彦先生（東北医科薬科大学麻酔科学教室）
 - 水谷太郎先生（筑西市医療監）
3. 第 38 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（西田会長）
 - ・2016 年 7 月 16、17 日に名古屋国際会議場で開催予定
 - ・シンポジスト等で毎年活躍されている方には、学会に入会するよう昨年に引き続き依頼
 - ・一部のプログラムでは入退室管理を試行予定
 - ・5 月末に発行する人工呼吸 33-1 にプログラムなど開催案内を掲載
 - ・e 医学会利用による学術集会登録の件はコストの問題があり、引き続き検討
4. 第 39 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況（布宮副会長）
 - ・2017 年 7 月 15（土）、16 日（日）に、台場の東京ファッションタウンビルで開催予定
 - ・メインテーマは検討中
5. 各委員会報告
 - 1) 将来計画委員会（川前委員長）
 - ・委員会は、会員の意見を広く吸い上げる機構として活動していく
 - ・委員の一部は理事会メンバーと重複するが、非理事の重鎮の登用を視野に入れていく
 - ・森永俊彦委員が任期満了で退任
 - ・後任の委員会推薦は山田芳嗣代議員
 - 2) 人工呼吸編集委員会（藤野担当理事）
 - ・人工呼吸誌第 32 巻 2 号を発行（2015 年 11 月）

- ・同第 33 巻 1 号を 2016 年 5 月末に発行予定 特集「呼吸不全終末期の管理」
 - ・同 2 号は執筆依頼済 特集「人工呼吸療法—今後の展望」
 - ・同 34 巻 1 号は企画検討中 特集「ハイフローセラピー」が内定
 - ・投稿論文数は過去 5 年間傾向
 - ・投稿査読状況（2015 年 7 月～現在）
 - 新規投稿 21、採択 6、リジェクト 0、再投稿辞退 0
 - ・平成 27 年度学会賞
 - 優秀論文賞：該当なし
 - 奨励論文賞：大竹純平氏（帝京大学医学部附属溝口病院 臨床工学技士）
竹内伸太郎氏（国立病院機構八雲病院 看護師）
 - ・投稿規定を以下のとおり改訂（32 巻 2 号、33 巻 1 号）
 - 執筆要項（11）単位記載に関する変更
 - 不正論文取り扱い規約を制定
 - 執筆要項（3）「④主著者の職種」の明記を追加
 - ・用語集改訂 2 版を学会 HP に掲載、今後約 5 年ごとに見直しの予定
 - ・人工呼吸誌に掲載していた各種資料でホームページに掲載されているものは割愛
 - ・ただし、賛助会員一覧は残す
 - ・理事会および代議員会委員会議事録は会員専用ページに掲載
 - ・第 38 回学術集会で「コメディカルのための呼吸療法論文作成テクニック」セッションを開催（中根委員長以下、編集委員メンバー）
 - ・ユーザーレポートの掲載件数が減少、編集部から積極的に依頼する予定
- 3）代議員審査委員会（西田担当理事）
- ・2017 年 7 月に委員 8 人中 6 人が任期満了となる
 - ・業務に支障がないように引き継ぎをする
 - ・今後は、交代が集中しないように配慮していく
 - ・代議員審査という委員会の性格上、看護師や CE など多職種で構成していく
 - ・新代議員に 15 名の申請があり、13 人は適格と判断された
 - ・残る 2 名は理事会審査で適格と判断されたため、15 名全員に委嘱することとなった
 - ・現代議員 97 名中任期満了が 13 名、辞退 1 名だったので、83 名を再審査した
 - ・再審査対象の 83 名は再任資格ありと判断された
 - ・代議員再任規定のうち、代議員会の参加状況を重視すべきかどうかの問題提起があった
 - ・代議員における職種の割合については方向性などを議論する必要がある
- 4）小児在宅人工呼吸検討委員会（尾崎担当理事）
- ・小児在宅人工呼吸マニュアルを 1,000 部 80 万円で発行予定
 - ・7 月の学術集会 WS にてマニュアルの案を提示予定
- 5）セミナー委員会（大塚担当理事）
- ・2015 年度の開催セミナー
 - 第 40 回日本呼吸療法医学会セミナー（神戸）2015 年 5 月 16 日（土）、272 名
 - 第 17 回日本呼吸療法医学会セミナー（実技）2015 年 7 月 17 日（金）、31 名
 - 第 41 回日本呼吸療法医学会セミナー（東京）2015 年 11 月 7 日（土）、250 名
 - ・第 41 回は初めて会場なので募集人数を少なくした
 - ・その結果、約 27 万円の赤字となった
 - ・2016 年度は募集人数を増やし、黒字予算を計上した
 - ・2016 年度のセミナー計画
 - 第 42 回日本呼吸療法医学会セミナー（神戸）2016 年 6 月 4 日（土）
 - 第 18 回日本呼吸療法医学会セミナー（実技）2016 年 7 月 16 日（土）
 - 第 4 回医師向けセミナー（東京）2016 年 8 月 27 日（土）
 - 第 43 回日本呼吸療法医学会セミナー（東京）2016 年 11 月 13 日（日）
 - ・以下のとおり人事異動報告（前回理事会で承認済）があった
 - 2016 年 7 月 委員長：今泉 均 東京医科大学麻酔科学分野・集中治療部
 - 2016 年 7 月 委員：平尾 収 大阪府立急性期・総合医療センター麻酔科

6) チーム医療推進委員会 (布宮担当理事)

- ・呼吸ケア・リハビリテーション学会との合同事業である RST プロジェクトは 4 年目となる UMIN の症例登録システム「INDICE」を利用した入力システムおよびデータベースが立ち上がった
システムの試用版が完成し、間もなく運用試験を行う
本運用は 9 月以後の予定
RST プロジェクトの登録システムの維持・管理については本委員会で業務を引き継ぐ
当面の維持・管理は呼吸療法医学会のチーム医療推進委員会が行う
今後とも連携を密に行い、運用のための費用は両学会が平等に負担する
- ・「非医師の会員投稿支援システム」は会誌および HP に案内を掲載中
相談件数が増加した場合は、委員会メンバーに論文作成の指導を依頼予定
支援システムのアナウンス方法は、今後検討が必要

7) 人工呼吸管理安全対策委員会 (尾崎担当理事)

- ・人工呼吸器の突然の動作停止事例 2015 年の集計
報告 7 件、うちアラームによる覚知 2 件・停止そのものに気づいたもの 5 件
転帰は、実害なし 4 件・低酸素血症 3 件
日本臨床工学技士会の機関誌に症例集積の依頼を掲載して周知を図っている
- ・2016 年の活動計画
人工呼吸器の突然の動作停止事例収集の継続
ハイフローセラピーに関するガイドラインの検討
人工呼吸中の身体拘束に関する審議
NPPV インターフェース「ヘルメット」に関する注意喚起文の検討

8) 専門医委員会 (藤野担当理事)

- ・2016 年 7 月で鶴田委員長が委員長任期満了となり、副委員長の中沢先生が新委員長に就任
- ・副委員長は委員会で検討予定
- ・鶴田委員長、布宮委員、水谷委員が 2017 年 7 月に任期満了となる
- ・2016 年度日本呼吸療法医学会専門医研修施設は新規 7 施設、更新 4 施設の申請があり、書類審査を 5 月 27 日に実施予定
- ・筆記試験の出題範囲一覧と筆記試験内容は、5 月発行の『人工呼吸』に掲載してきたが、今後は学会 HP での開示とした
- ・専門医共通講習を本会専門医の更新要件に加えるか否かについて、今後審議予定
- ・教科書発刊の件は、既存の教科書も多いことから当面は行わない

9) 危機管理委員会 (小谷担当理事)

- ・2015 年は、韓国で中東呼吸器症候群 (MERS) の流行があった
感染者は 180 人を超え、死亡率は 20%と報告された
このような重篤な新興感染症が日本に侵入した時の対応法を検討した
学会ホームページ上で、MERS 情報を適宜更新した
- ・「MERS 勉強会」を日本集中治療医学会と共催した (2015 年 11 月 20 日、東京)
講演 韓国 Samsung Medical Center の Gee Young Suh 先生
国立国際医療研究センターの忽那賢志先生
- ・2016 年活動計画
インフルエンザなど呼吸不全に至る感染症に関して、継続して情報収集を行う
感染症指定医療機関 (特定 4 施設 + 第一種 49 施設) は必ずしも人工呼吸管理を含む呼吸療法に長けているわけではないため、集中治療が可能な医療機関との連携をとる方策を検討する
新興感染症の対策としての勉強会を適宜企画する

10) ECMO プロジェクト委員会 (竹田担当理事)

- ・シミュレーションラボを 2014 年 12 月 13 日に藤田保健衛生大学にて開催
- ・厚生労働省と症例登録のシステム作りを検討した
- ・PCPS 研究会が PCPS・ECMO 研究会となった

- ・ 2018 年の同研究会は竹田理事が主催予定
 - ・ Asia-Pacific ELSO を開催した
 - ・ インフルエンザ重症例の検討中 H1N1 が中心だが、毒性が強くなった可能性がある
 - ・ ECMO による救命率は、2010 年の 35%から 2015 年の 83%に上昇した
- 11) 利益相反委員会（西田担当理事）
- ・ COI 指針・細則改訂案を検討した→審議事項へ
- 12) 学術委員会（橋本委員長）
- ・ 学術委員会内規案を検討した→審議事項へ
- 13) 社会保険委員会（落合担当理事）
- ・ HP に社会保険委員会のサイトを公開し、診療報酬収載希望公募した
 - ・ 28 年度の診療報酬改定では、呼吸療法領域で多数の提案が採択された
 - ・ 次回の 30 年度の改定に向けて、本会としての提案案件を固めていく
 - ・ 今回収載となったハイフロー療法に関し、保険点数改定に向けて本会代議員の所属施設で治療結果を集積していく
- 14) 財務委員会（落合委員長）
- ・ 学術集会を学会本体と連結決算した場合の試算を、秋田の学術集会を対象に行った
収入の中には、法人税の課税対象となるものと消費税の課税対象となるものがある
例えば学術集会参加費は消費税の対象となる
収益事業として法人税の対象となるものには、展示・ランチョン・共催セミナーがある
試算では収益事業が収入全体の 7 割程度となった
収益事業は学会本体の会計にはほとんどなく、学術集会が圧倒的に大きな割合を占める
寄付金は収益事業にはならない
連結決算は不可能ではないが、学術集会では収入の名目を十分に吟味する必要がある
学術集会の収入の名目次第では、学会全体の財政を逼迫させる可能性がある
連結決算とするには事務局の機能を大きくする必要がある
支出のうち収益事業の必要経費は、収入の名目ごとの割合で決まる
 - ・ 計算方式は会計士の考え方やスタンスで変化する余地がある
 - ・ 一度連結決算の申請をすると、以降は継続的に納税義務が発生する
 - ・ 学術集会を別会計にすると、会長の経済的・心理的負担が過大になる可能性がある
 - ・ 将来的には連結決算にすべきと考えられる
 - ・ 連結決算になると、会長の資金繰りの意識が変化する可能性がある
 - ・ 学術集会の収益が会長個人あるいは主催大学のものになるのは好ましくない
 - ・ 学術集会を主催するには大変な労力を要するので、正当な対価は支払うべきである
 - ・ 開催地などの違いで会長が得る対価が異なるのは好ましくない
 - ・ ランチョンなどでは、契約を企業と明確に取り交わす必要がある
 - ・ 学術集会の参加費は値上げも考えられるが、職種によって金銭感覚が違う
 - ・ 本体の年会費を値上げして、経済的基盤を強化することも必要
 - ・ セミナーなどの収益事業も行って税金も払いながら、経済的基盤を強化するのが王道
 - ・ 本体の規模が大きくなれば学術集会の影響を受けにくくなる
 - ・ 学術集会の予算規模程度は学会本体が蓄えておく必要がある
 - ・ 事前登録制度は、学術集会の収入を安定化させる
 - ・ 次回の総会前に公認会計士も交えた臨時理事会を開催し、さらに検討する必要がある
 - ・ 将来的なこと以外に、直近の学術集会開催準備金の支払時期は早急に決める必要がある
- 15) 倫理委員会（小谷担当理事）
- ・ 2015 年度に作成した倫理委員会内規に基づき、今後の委員会活動の方向性を検討した
 - ・ 他学会の倫理委員会活動の情報を収集し、それらとの整合性を検討中。
 - ・ 2016 年度は、日本集中治療医学会が行う倫理教育講座に本会会員が参加するためのシステム構築を行う。
 - ・ 本委員会独自で行う活動について、委員会で検討していく。
 - ・ 日本集中治療医学会や麻酔科学会など他学会と連携していく
- 16) ARDS クリニカルプラクティスガイドライン作成委員会（橋本委員長）

- ・ガイドラインの発行に当たり、4社から再度見積を取り直した
 - ・その結果、総合医学社にPDF化を依頼することとなった
 - ・4月18日からパブリックコメント募集を開始し、現在まで15件の意見が届いた
 - ・全体で250頁、後半のCQ部分で100頁ほどになるため、書籍にすると印刷費用がかかる
 - ・CQアンサーの解説(30頁程度)を人工呼吸誌に掲載することが検討された→検討事項
 - ・7月15日にPDF版を発行予定
- 17) 医工連携ワーキンググループ(西田担当理事)
- ・2014年秋田の学術集会から医工連携のセッションが始まり、2015年京都でも実施されたが入場者は少なかった
 - ・学会HP上で医工連携アイデア募集を行っている
 - ・集まったアイデアの取り扱いについて検討が必要
 - ・2015年8月6日(木)に日本医療機器工業会で日本医療機器工業会人工呼吸委員会との合同会議を開催した
 - 成人の人工呼吸では、現在のテクノロジーで満足している旨が確認された
 - 小児では、自発呼吸のトリガーの点で十分対応ができていない状況が確認された
 - 今後も、現場で困っている点を抽出し、製造会社等と情報共有することが確認された
 - ・第38回学術集会では、人工呼吸に特化した医工連携セッションを開催する。
 - 演者として竹内宗之先生(大阪府立母子)と中根伸一氏(メトラン社)に依頼
 - それぞれの立場からの取り組みを披露していただく予定
 - ・中小企業を対象にするかどうかは検討が必要で、本会の学会規模に応じて検討していく
- 18) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ(尾崎委員長)
- ・指針がある程度でき上がった段階で、セミナー開催などを検討していく
 - ・第38回学術集会では、委員会報告のワークショップで進捗状況を報告予定
6. その他
- ・持ち回り理事会決定事項が承認された。
 - 第39回の学術集会の演題募集時から倫理規定を明記する
 - 日本臨床工学技士会が主催する呼吸療法関連指定講演会の後援
 - 人工呼吸誌からホームページに掲載された事項の削除
 - ただし、賛助会員名簿は雑誌への掲載を継続する
 - ホームページ上に学会員共通ページの作成
 - 理事会議事録・社員総会議事録などを掲載予定
 - 会員共通のIDとパスワードで管理
 - ID/PWは会費請求書送付時に周知し、毎年変更の予定
 - 学会員であることのメリットを明確化するためのアドホック委員会を立ち上げる
 - 代議員選出・再審査の内規改正案の検討→審議事項
 - 代議員審査結果の承認→報告事項
 - 平成27年度学会賞の承認→報告事項
 - 学術集会開催援助金について→報告事項
 - ・次回理事会は7月15日(金)13:00~15:30にANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋5Fローズルームで開催予定

【審議事項】

1. 第41回学術集会会長について(川前理事長)
 - ・藤野理事の就任が承認された
 - ・2019年8月第1土日に大阪国際会議場での開催を検討中
2. 今後の学術集会援助費、決算方式について(川前理事長)
 - ・2016年度以降は連結決済も見据えて次回の臨時理事会で詳細に検討予定
3. 年会費納入率について(川前理事長)
 - ・年度末に年会費の再請求を行ったことで、納入率が上昇した
4. 代議員選出・再審査に関する内規改正について(川前理事長)
 - ・事務局長が変更案を作成し、持ち回り理事会で検討予定

5. 選挙管理委員の選任について
 - ・当日指名する。
 - ・職種指定理事（最大4名まで）は予め検討をし、内諾を得ておく必要がある。
6. 各委員会からの審議事項および関連事項
 - 1) 学術委員会内規案について（橋本委員長）
 - ・本日付の改正が承認された。
 - 2) 学術集会の発表資格の件（橋本委員長）
 - ・次回理事会で検討することになった。
 - 3) 将来計画委員会の次期委員
 - ・推薦のあった東京大学の山田芳嗣先生の就任が承認された
 - 4) 新代議員・代議員再審査
 - ・委員会の提案の通り認定した
 - 5) 利益相反委員会の COI 規定について
 - ・日本医学会の COI ガイドラインに沿って改訂するという委員会の提案を承認した
 - ・COI のスライド例をホームページに掲載することが決定された
 - 6) NPPV のマスク装着による顔面褥瘡について
 - ・人工呼吸管理安全対策委員会に対して、注意喚起文を作成するよう指示
 - 7) MESR 勉強会について
 - ・危機管理委員会に対し、昨年実施した勉強会の要旨を人工呼吸誌に掲載するよう指示
 - 8) ARDS クリニカルプラクティスガイドラインについて
 - ・クリニカルクエスションの解説部分について人工呼吸誌に掲載することを決定した
 - 9) 学術委員会内規案について
 - ・原案通り承認された
 - ・要旨は以下の通り
 - 学術委員会の目的は学術集会の方向性を検討すること
 - 具体的な学術プログラムは会長が組織するプログラム作成ワーキンググループで検討
 - 委員長は前会長が務め、単年ごとに交代
 - 前会長・会長・副会長2名を役職指定委員とする
 - ・2016年度の委員は以下の通りと決定した

委員長	橋本 悟（前会長；京都府立医科大学附属病院集中治療部）
委 員	石川 朗（神戸大学大学院保健学研究科地域保健学領域）
	伊藤聡子（神戸市立医療センター中央市民病院看護部）
	今中秀光（宝塚市立病院集中治療救急室）
	陳 和夫（京都大学呼吸睡眠制御学講座）
	林久美子（岡山大学臨床工学部）
	西田 修（第38回会長；藤田保健衛生大学医学部麻酔・侵襲制御医学講座）
	布宮 伸（第39回会長；自治医科大学医学部
	麻酔科学・集中治療医学講座集中治療医学部門）
	竹田晋浩（第40回会長；かわぐち心臓呼吸器病院）
担当理事	大塚将秀（横浜市立大学附属市民総合医療センター集中治療部）
7. その他
 - ・マイナンバーの管理業務は、事務局が対応することとなった
 - ・落合 ELISO 担当委員が任期満了のため、後任は藤野理事に依頼することとなった
 - ・第40回学術集会（竹田理事）は2018年8月第1週末、東京ドームホテルに内定した
 - ・委員会費で予算と決算の差が大きく、委員会間の格差も激しい
 - 委員会関連費用は会議費と事業費に分け、交通費は別項目とする
 - 提出フォームを作成し、見やすい予算を立てやすくしていく